
原著論文

中高年者の社会参加活動と情報源の活用との関連について
—年代と活動内容による比較検討—

茨木 裕子

**Effect of Information Utilization on Social Participation:
A Comparison between Early Middle-Aged, Late Middle-Aged, and Older Adults**

Yuko Ibaraki

(Advanced Research Center for Human Sciences, Waseda University)

(Received : May 9, 2019 ; Accepted : August 1, 2019)

Abstract

This study analyzed the effect of information utilization in social participation by comparing age levels. Data were obtained from a self-administered survey of 676 persons aged 40 years and over. The early middle-aged group (aged 40 to 54) was compared with late middle-aged (aged 55 to 64) and older adults (aged 65 over) .

Results showed that (1) information utilization through friends' or acquaintances' recommendations, newspapers, flyers, town circular notices, Facebook, and mail delivery services promoted regional events, entertainment, and learning activities among early middle-aged; (2) information utilization through family recommendations, magazines and books, town circular notices, Twitter, and mail delivery services promoted regional events, culture classrooms, learning activities, and activities to master qualifications and technology among late middle-aged; and (3) information utilization through friends' or acquaintances' recommendations, coworker recommendations, magazines and books, town circular notices, public information magazines of municipality, and Twitter promoted regional events, entertainment, culture classrooms, learning activities, and activities to master qualifications and technology among older adults.

These results demonstrate that it is necessary to provide activity information using various information sources by age and types of social activities.

Key Words : Social participation, Social activities, Information source, Information utilization, Middle-aged and Older adults

1. はじめに

超高齢社会といわれる昨今、退職後の社会参加は

退職で失う社会的役割や、自尊心などの心理的リソースを回復する有効な手段とされ、その活動は新たな社会関係を築き、その中で楽しみや生きがい

をもたらすといわれている。また、労働力不足を補うのみならず、現役世代が抱える子育て等の問題解決にもなり、「世代間の新たな支え合いの仕組み」⁽¹⁾の中で知識と経験を活かす場として期待されてきた。

さらに近年、中高年者は地方創生の柱の一つとして地域社会に溶け込み、多世代との協働や地域貢献の担い手として活躍することが求められている⁽²⁾。また、そのためには在職中の早い時期からの地域における社会参加活動への重要性が指摘されてきた⁽³⁻⁹⁾。

しかし、中高年者のうち社会活動への参加意向者は約5割であるのに対し、実際の活動参加者は約2割にとどまっており⁽¹⁰⁾、参加意向が活動参加につながっていないのが現状である。

これまで地域社会とは無縁であった人々が、突然、定年退職後に地域社会と向き合うことは容易ではない^(7, 11)。どのように活動していけばよいのかわからず、活動参加を躊躇する者も多く⁽⁶⁾、退職後、社会活動へ参加するためには様々な問題があり、これからの課題となっている。

内閣府の調査によると、社会活動に参加しなかった理由として、どのような活動が行われているか知らない⁽¹²⁾、時間・場所・費用などの必要な情報が入手できない⁽¹³⁾など、情報入手の困難さが報告されている⁽¹⁴⁾。

一方、既存研究では中高年者の社会参加活動を促進するために、望まれる活動情報を効果的に伝達する必要性が論じられてきた⁽¹⁵⁻¹⁶⁾。高橋⁽¹⁵⁾は仲間同士の口コミや広報誌への掲載に加え、パソコン通信を社会活動の広報に取り入れれば、幅広い世代に情報提供の機会を与えられることを指摘している。岡本ら⁽¹⁷⁾は高齢者の社会参加活動の要因として、親しい友人や仲間の数・外出や活動参加への誘い・活動情報の認知・活動情報を教えてくれる人を挙げている。また、高齢者の非活動要因として、活動情報の認知の程度が低いことが指摘されている⁽¹⁸⁾。さらに、高齢者の社会活動では、得た活動情報量が多いとそれを活用した活動参加のきっかけが増えることが報告されている⁽¹⁹⁾。これらの先行研究は、情報提供の有無や情報提供者の存在、活動への誘いが活動参加へのきっかけとなることを示している。しかし、いずれの研究も、高齢者がその活動情報を具体的にどんな情報源から入手しているのかについては論じられていない。また、茨木ら⁽²⁰⁾は、中高年

者の社会参加活動では年代によって異なる情報提供手段が必要とされることを明らかにしているが、その分析は各活動の参加状況の合計値と情報入手との関連を総合的に検討しているにとどまり、個々の活動毎に活動参加につながる具体的情報源が検討されていない。

以上のような背景から、今後、望まれる活動情報の提供のために、個々の社会参加活動においてどのような情報源が活用されているのか、その活用実態を把握することが求められている。そこで本研究では、以上の先行研究をふまえ、社会活動の活動情報に着目し、「中高年者の社会参加活動では、年代や活動内容によって、異なった情報源が活用されている」という仮説を設定し、社会参加活動につながる情報を各年代に提供するときの効率的な手段を明らかにすることを研究目的とした。

2. 研究方法

2.1 調査方法と調査対象者

本調査は、埼玉県所沢市において2015年7月10～31日の期間で郵送調査を実施した。埼玉県所沢市は東京都に隣接し、都心部への通勤利便性が高く、都心のベッドタウンとして発展してきた。2017年の所沢市市民意識調査⁽²¹⁾によると、地域活動の関心度は40歳代で約4割、50～60歳代で約5割、70歳以上では約6割を越え、年齢が上がるほど社会参加に対する関心が高くなっている。調査対象者は、2013年に所沢市の住民基本台帳から無作為抽出した40歳以上の男女9,000人に対して行った地域コミュニティ構築に関する社会調査の回答者3,143人のうち、今後も調査に協力すると回答した1,233人とした。調査の結果、回答総数は849人、うち全質問項目が未記入だった2名を除いた有効回答数は847人（有効回収率68.7%）であった。本研究では、分析に用いる変数に欠損のない676人を分析対象者とした。

2.2 調査項目

1) 基本属性

基本属性は、中高年者の社会参加活動の促進要因として報告⁽²²⁻²⁴⁾されている性別、年齢、最終学歴、世帯年収、暮らし向き、健康状態、配偶者の有無、就労実態をたずねた。

2) 社会参加活動の阻害要因

先行研究^(7, 18, 25)で明らかになっている社会活動の阻害要因のうち、経済的問題、身体的不調、多忙、技術・資格の有無、対人的ストレス、仲間の有無、サービス内容への不満、情報の少なさについて、「1. 全く思わない」～「5. とてもそう思う」の5件法で回答を求めた。

3) 社会活動の情報源

社会参加を促すには友人や仲間、近隣の人々、マスメディア、自治会などの回覧板、自治体の広報誌など、現実的で実際に役立つような情報へのアクセスを高める必要性が指摘されている⁽²⁶⁾。さらに近年、インターネットの普及により、ウェブサイト(WEB)やソーシャルネットワークサービス(SNS)など、新しい媒体が社会活動の告知や報告あるいは表現活動などの情報発信に利用されるようになり、情報提供手段が多様化している。そこで本調査では、従来からの情報源にWEBやSNSも加え調査の対象とした。結果、社会活動の情報源を「家族の紹介」「友人・知人の紹介」「職場の同僚の紹介」「新聞」「テレビ」「雑誌・本」「フリーペーパー」「チラシ」「自治会・町内会の回覧板」「行政の広報誌」「行政のホームページ」「行政以外のホームページ」「フェイスブック」「ツイッター」「ライン」「配信メールサービス」の16情報源とした。

情報源の利用状況は、上記16情報源それぞれについて、社会活動の情報取得手段として利用しているかを、「1. 全く利用していない」～「5. かなり利用している」の5件法で回答を求めた。

4) 社会活動の参加状況

さらに、社会活動を橋本ら⁽²⁷⁾の人との繋がりを促す「家庭外での対人活動」と定義し、グループ活動のほか個人活動も含めた。そして、退職者の多い年代(高齢者)と就労者の多い年代(中年者)との比較検討を行う本研究では、仕事を社会参加活動の関連要因と位置付けた。結果、社会的活動として「地域の行事・活動」、個人的活動として「健康・スポーツ活動」と「催し物」への参加、グループ活動として「カルチャー教室」への参加、市民セミナーや通信教育などの「学習活動」と「資格・技能取得活動」を学習的活動とした。

社会活動の参加状況は、上記6活動それぞれについて、「1. 全く参加していない」～「5. 出来る

だけ参加している」までの5件法で回答を求めた。

5) 年代の操作的定義

社会参加活動の関連要因として就労実態⁽²²⁾や定年経験⁽²⁸⁾が報告されている。そこで本研究では、定年前後の情報活用を比較するために、40～54歳を中年前期群、定年前後の55～64歳を中年後期群として年代の操作的定義を行い、65歳以上の高齢者を高齢期群とした。

2.3 分析方法

1) 社会参加活動に関連する指標の分析

阻害要因、情報源の利用状況、社会活動の参加状況について、年代間を一元配置分散分析で比較した。

2) 社会参加活動に関連する要因の分析

「中高年者の社会参加活動では、年代や活動内容によって、異なった情報源が活用されている」という仮説を検証するために、社会活動の6活動それぞれの参加状況を従属変数、情報源の16項目を独立変数、基本属性を統制変数とし、重回帰分析(強制投入法)を行った。分析は中年前期群、中年後期群、高齢期群別に行った。

解析は、IBM SPSS Statistics 25を用い、有意水準は5%とした。

2.4 倫理的配慮

回答データは統計的処理をし、個人を特定しないこと、調査は強制的でないことなどを調査協力依頼文書に明記し、調査票の返送をもって調査協力への同意とみなした。なお本研究は早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理委員会」の承認(承認番号2015-013)を得た。

3. 研究結果

3.1 対象者の基本属性等

中年前期群が128人(18.9%)平均年齢48.3歳(SD=3.7)、中年後期群が117人(17.3%)平均年齢60.1歳(SD=3.0)、高齢期群が431人(63.8%)平均年齢74.2歳(SD=6.0)であった(表1)。

3.2 社会参加活動に関連する指標の分析

1) 阻害要因

表2のとおり、中年前期群では「多忙」、「情報の

表1 分析対象者の基本属性

変数/水準	合計		中年前期群 (54歳以下)		中年後期群 (55歳～64歳)		高齢期群 (65歳以上)	
	(n = 676)		(n = 128)		(n = 117)		(n = 431)	
	(100.0)		(18.9)		(17.3)		(63.8)	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
性別								
男性	332	(49.1)	44	(34.4)	43	(36.8)	245	(56.8)
女性	344	(50.9)	84	(65.6)	74	(63.2)	186	(43.2)
年齢								
54歳以下	128	(18.9)						
55～64歳	117	(17.3)						
65歳以上	431	(63.8)						
平均年齢±標準偏差(歳)	66.9 ± 11.6		48.3 ± 3.7		60.1 ± 3.0		74.2 ± 6.0	
最終学歴								
中学校・旧制小学校・高等小学校	57	(8.4)	3	(2.3)	2	(1.7)	52	(12.1)
高校・旧制中学校・女学校	281	(41.6)	39	(30.5)	46	(39.3)	196	(45.5)
専修(専門)学校	56	(8.3)	18	(14.1)	10	(8.5)	28	(6.5)
短大・高等専門学校・旧制高校	74	(10.9)	25	(19.5)	18	(15.4)	31	(7.2)
大学・大学院	208	(30.8)	43	(33.6)	41	(35.0)	124	(28.8)
世帯年収								
100万円未満	29	(4.3)	2	(1.6)	5	(4.3)	22	(5.1)
100～300万円未満	230	(34.0)	15	(11.7)	25	(21.4)	190	(44.1)
300～500万円未満	204	(30.2)	21	(16.4)	30	(25.6)	153	(35.5)
500～700万円未満	95	(14.1)	29	(22.7)	22	(18.0)	44	(10.2)
700～900万円未満	49	(7.2)	27	(21.1)	15	(12.8)	7	(1.6)
900万円以上	69	(10.2)	34	(26.6)	20	(17.1)	15	(3.5)
暮らし向き								
苦しく、非常に心配である	30	(4.4)	10	(7.8)	5	(4.3)	15	(3.5)
ゆとりがなく、多少心配である	139	(20.6)	36	(28.1)	24	(20.5)	79	(18.3)
あまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	420	(62.1)	69	(53.9)	75	(64.1)	276	(64.0)
ゆとりがあり、全く心配せず暮らしている	83	(12.3)	12	(9.4)	12	(10.3)	59	(13.7)
わからない	4	(0.6)	1	(0.8)	1	(0.9)	2	(0.5)
健康状態								
健康でない	38	(5.6)	5	(3.9)	7	(6.0)	26	(6.0)
あまり健康でない	90	(13.3)	11	(8.6)	11	(9.4)	68	(15.8)
どちらともいえない	98	(14.5)	21	(16.4)	18	(15.4)	59	(13.7)
どちらかといえば、健康である	366	(54.1)	70	(54.7)	62	(53.0)	234	(54.3)
非常に健康である	84	(12.4)	21	(16.4)	19	(16.2)	44	(10.2)
配偶者の有無								
いない	135	(20.0)	21	(16.4)	16	(13.7)	98	(22.7)
いる	541	(80.0)	107	(83.6)	101	(86.3)	333	(77.3)
就労実態								
働いていない	377	(55.8)	17	(13.3)	36	(30.8)	324	(75.2)
働いている	299	(44.2)	111	(86.7)	81	(69.2)	107	(24.8)

少なさ」, 「仲間の有無」, 「サービス内容への不満」の得点が高くなっていた。中年後期群では「多忙」, 「情報の少なさ」の得点が高くなっていた。高年期群では「多忙」, 「情報の少なさ」の得点がやや高くなっていた。さらに、「経済的な負担が大きい」では、中年前期群が中年後期群や高齢期群に対して有意に高値を示した。「活動の場での人間関係が煩わしい」, 「一緒にする活動仲間がいない」, 「活動場所が自宅から離れている」, 「活動に関する情報提供がない」では、中年前期群が高齢期群に対して有意に高値を示した。「時間的に拘束される」, 「期間的に拘束される」, 「精神的ゆとりがない」は中年前期群が最も高く、次に中年後期群、高齢期群となってお

り、有意差がみられた。

2) 情報源の利用状況

表3のとおり、中年前期群と中年後期群では、「行政の広報誌」の得点が高くなっていた。高年期群では、「行政の広報誌」「自治会・町内会の回覧板」の得点が高くなっていた。また、「職場の同僚の紹介」, 「フリーペーパー」, 「行政以外のホームページ」, 「ライン」では、中年前期群が高齢期群に対して有意に高値を示した。「自治会・町内会の回覧板」では、高齢期群が中年前期群や中年後期群に対して有意に高値を示した。「新聞」では、高齢期群が中年前期群に対して有意に高値を示した。

表2 社会参加活動の阻害要因

	中年前期群 (54歳以下)		中年後期群 (55~64歳)		高齢期群 (65歳以上)		F値 (df=2)	p値
	(n=128)		(n=117)		(n=431)			
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
経済的問題								
経済的な負担が大きい	2.96	± 1.30	2.55	± 1.05	2.35	± 1.06	14.85	***
身体的不調								
健康に自信がない	2.45	± 1.27	2.42	± 1.18	2.47	± 1.24	0.08	
体力に自信がない	2.43	± 1.24	2.44	± 1.20	2.50	± 1.26	0.19	
多忙								
時間的に拘束される	3.90	± 1.04	3.44	± 1.13	2.87	± 1.22	41.93	***
期間的に拘束される	3.82	± 1.08	3.38	± 1.11	2.82	± 1.17	41.71	***
精神的なゆとりがない	3.23	± 1.32	3.00	± 1.22	2.49	± 1.14	22.59	***
技術・資格の有無								
得意とする技術・技能を持っていない	2.88	± 1.16	2.86	± 1.18	2.75	± 1.20	0.88	
対人的ストレス								
活動の場での人間関係が煩わしい	2.98	± 1.23	2.92	± 1.24	2.67	± 1.21	4.12	*
仲間の有無								
一緒に活動する仲間がいない	3.10	± 1.25	2.83	± 1.24	2.64	± 1.25	6.87	**
サービス内容への不満								
活動場所が自宅から離れている	3.01	± 1.26	2.73	± 1.15	2.59	± 1.26	5.54	**
行政からの支援がない	2.73	± 1.07	2.52	± 1.07	2.51	± 1.14	1.95	
よい指導者や組織・団体がいない	2.94	± 1.09	2.74	± 1.14	2.67	± 1.18	2.73	
情報の少なさ								
活動に関する情報提供がない	3.19	± 1.23	3.05	± 1.24	2.81	± 1.22	5.32	**

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

3群間は一元配置分散分析にて比較を行った。また、有意差が認められた場合はTukey法による多重比較にて群間比較を行った。

表3 情報源の利用状況

	中年前期群 (54歳以下)		中年後期群 (55~64歳)		高齢期群 (65歳以上)		F値 (df=2)	p値
	(n=128)		(n=117)		(n=431)			
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
家族の紹介	2.39	± 1.43	2.03	± 1.08	2.32	± 1.28	2.87	
友人・知人の紹介	2.72	± 1.39	2.75	± 1.40	2.84	± 1.36	0.44	
職場の同僚の紹介	2.30	± 1.34	1.99	± 1.22	1.76	± 1.10	10.28	***
新聞	2.43	± 1.38	2.75	± 1.34	2.95	± 1.39	7.04	**
テレビ	2.50	± 1.34	2.43	± 1.28	2.59	± 1.32	0.67	
雑誌・本	2.67	± 1.33	2.60	± 1.33	2.60	± 1.31	0.16	
フリーペーパー	2.72	± 1.36	2.38	± 1.29	2.13	± 1.17	11.48	***
チラシ	2.78	± 1.40	2.70	± 1.30	2.67	± 1.28	0.34	
自治会・町内会の回覧板	2.81	± 1.37	2.83	± 1.37	3.17	± 1.31	5.53	**
行政の広報誌	3.23	± 1.20	3.11	± 1.28	3.29	± 1.28	0.94	
行政のホームページ	2.28	± 1.29	2.19	± 1.21	2.22	± 1.25	0.19	
行政以外のホームページ	2.32	± 1.35	1.97	± 1.11	1.98	± 1.13	4.26	*
フェイスブック	1.43	± 0.93	1.37	± 0.80	1.39	± 0.77	0.14	
ツイッター	1.40	± 0.88	1.23	± 0.55	1.29	± 0.68	1.96	
ライン	1.61	± 1.11	1.37	± 0.84	1.33	± 0.77	5.42	**
配信メールサービス	1.79	± 1.15	1.58	± 0.98	1.60	± 1.06	1.69	

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

3群間は一元配置分散分析にて比較を行った。また、有意差が認められた場合はTukey法による多重比較にて群間比較を行った。

3) 社会活動の参加状況

表4のとおり、中年前期群では、「地域の行事・活動」、「催し物」の順に得点が高くなっていった。中年後期群では、「地域の行事・活動」、「健康・スポーツ活動」、「催し物」の順に得点が高くなっていった。高年齢群では、「地域の行事・活動」、「催し物」、「健康・スポーツ活動」の順に得点が高くなっていった。さらに、「資格・技能取得活動」では、中年前期群が高年齢群に対して有意に高値を示した。「地域の行事・活動」、「催し物」では、高年齢群が中年前期群や中年後期群に対して有意に高値を示した。「健康・ス

ポーツ活動」、「学習活動」では、高年齢群が中年前期群に対して有意に高値を示した。「カルチャー教室」は中年前期群が最も低く、次に中年後期群、高年齢群となっており、有意差がみられた。

3.3 社会参加活動に関連する要因の分析

重回帰分析の結果、中年前期群では表5-1にみられるように、「地域の行事・活動」では配偶者の有無、友人・知人の紹介、自治会・町内会の回覧板で正の関連がみられた ($R^2 = 0.466, p < .001$)。また、「健康・スポーツ活動」では健康状態で正の関

表4 社会活動の参加状況

	中年前期群 (54歳以下) (n=128)	中年後期群 (55~64歳) (n=117)	高年齢群 (65歳以上) (n=431)	F値 (df=2)	p値
	平均値±標準偏差	平均値±標準偏差	平均値±標準偏差		
地域の行事・活動	2.40 ± 1.44	2.50 ± 1.36	2.93 ± 1.46	8.92	***
健康・スポーツ活動	1.80 ± 1.31	2.26 ± 1.49	2.61 ± 1.55	15.02	***
催し物	2.02 ± 1.29	2.26 ± 1.37	2.66 ± 1.41	12.21	***
カルチャー教室	1.47 ± 1.09	1.91 ± 1.33	2.35 ± 1.52	20.33	***
学習活動	1.61 ± 1.12	1.85 ± 1.24	2.14 ± 1.37	9.02	***
資格・技能取得活動	1.84 ± 1.37	1.61 ± 1.05	1.51 ± 0.93	5.01	**

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

3群間は一元配置分散分析にて比較を行った。また、有意差が認められた場合はTukey法による多重比較にて群間比較を行った。

表5-1 社会活動の参加状況を従属変数とした重回帰分析の結果 (中年前期群)

中年前期群(54歳以下) N = 128							
従属変数	地域の行事・活動	健康・スポーツ活動	催し物	カルチャー教室	学習活動	資格・技能取得活動	
統制変数・独立変数	β	β	β	β	β	β	
基本属性							
性別	-0.006	-0.054	-0.023	0.207	0.205 *	0.003	
年齢	0.072	0.065	0.103	0.062	0.037	-0.121	
最終学歴	0.091	0.146	0.207 *	0.085	0.142	0.166	
世帯年収	-0.064	-0.056	-0.142	0.084	0.049	0.074	
暮らし向き	0.039	0.078	0.125	0.199	0.054	-0.013	
健康状態	0.113	0.224 *	0.053	-0.010	-0.108	-0.012	
配偶者の有無	0.305 **	0.075	0.247 *	-0.061	0.015	-0.059	
就労実態	-0.018	-0.040	0.010	0.070	0.019	-0.094	
情報源							
家族の紹介	0.029	0.118	-0.088	0.024	-0.017	-0.037	
友人・知人の紹介	0.236 *	0.102	0.050	0.202	0.115	-0.066	
職場の同僚の紹介	-0.103	-0.037	0.094	-0.183	0.163	0.210	
新聞	0.040	-0.056	0.054	0.129	0.320 **	0.155	
テレビ	0.056	0.080	-0.126	0.133	-0.277 *	-0.052	
雑誌・本	0.043	0.029	-0.054	-0.311 *	-0.134	-0.247	
フリーペーパー	-0.177	-0.178	-0.110	-0.096	-0.242	-0.092	
チラシ	0.195	0.271	0.278	0.283	0.354 *	0.271	
自治会・町内会の回覧板	0.378 ***	0.137	0.269 *	-0.197	0.036	-0.091	
行政の広報誌	-0.138	0.025	-0.118	0.027	-0.103	0.218	
行政のホームページ	-0.071	-0.125	-0.138	0.039	-0.041	-0.145	
行政以外のホームページ	-0.115	0.041	0.132	-0.227	0.101	0.047	
フェイスブック	0.143	0.081	0.213	0.203	0.258 *	0.327 *	
ツイッター	-0.017	-0.119	-0.110	-0.134	-0.176	-0.208	
ライン	0.108	0.200	-0.160	-0.114	-0.090	0.016	
配信メールサービス	0.049	-0.006	0.323 **	0.216	0.222	0.124	
決定係数 R^2	0.466 ***	0.315 *	0.326 **	0.233	0.325 **	0.179	

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

注: β は標準偏重回帰係数

連がみられた ($R^2 = 0.315, p < .05$)。「催し物」では最終学歴, 配偶者の有無, 自治会・町内会の回覧板, 配信メールサービスで正の関連がみられた ($R^2 = 0.326, p < .01$)。「学習活動」では性別, 新聞, チラシ, フェイスブックで正の関連がみられ, テレビで負の関連がみられた ($R^2 = 0.325, p < .01$)。

中年後期群では表5-2にみられるように, 「地域の行事・活動」では家族の紹介, 自治会・町内会の回覧板で正の関連がみられた ($R^2 = 0.502, p < .001$)。「健康・スポーツ活動」では就労実態で負の関連がみられた ($R^2 = 0.367, p < .05$)。「カルチャー教室」では雑誌・本, 自治会・町内会の回覧板で正の関連がみられ, テレビで負の関連がみられた ($R^2 = 0.345, p < .05$)。「学習活動」では雑誌・本, ツイッターで正の関連がみられ, チラシで負の関連がみられた ($R^2 = 0.391, p < .01$)。「資格・技能取得活動」では世帯年収, 雑誌・本, ツイッター, 配信メールサービスで正の関連がみられ, チラシで負の関連がみられた ($R^2 = 0.340, p < .05$)。

高齢期群では表5-3にみられるように, 「地域の行事・活動」では健康状態, 友人・知人の紹介, 自治会・町内会の回覧板, ツイッターで正の関連がみられた ($R^2 = 0.370, p < .001$)。「健康・スポーツ活動」では健康状態, 友人・知人の紹介, 職場の同

僚の紹介で正の関連がみられ, 就労実態, フリーペーパーで負の関連がみられた ($R^2 = 0.358, p < .001$)。「催し物」では性別, 健康状態, 友人・知人の紹介, 行政の広報誌で正の関連がみられ, チラシで負の関連がみられた ($R^2 = 0.353, p < .001$)。「カルチャー教室」では性別, 友人・知人の紹介, 職場の同僚の紹介, 行政の広報誌で正の関連がみられ, 家族の紹介で負の関連がみられた ($R^2 = 0.276, p < .001$)。「学習活動」では性別, 配偶者の有無, 友人・知人の紹介, 雑誌・本, 行政の広報誌で正の関連がみられた ($R^2 = 0.293, p < .001$)。「資格・技能取得活動」では友人・知人の紹介, 職場の同僚の紹介で正の関連がみられた ($R^2 = 0.185, p < .001$)。

4. 考察

4.1 年代による特徴

中年前期群では, 他の年代に比べて, 「職場の同僚の紹介」, 「フリーペーパー」, 「行政以外のホームページ」, 「ライン」などの情報源を利用していた(表3)が, これらの情報源と社会参加活動との関連はみられず(表5-1), 社会参加活動には結びついていないことが示唆された。一方, 高齢期群では, 他年代と比べ「自治会・町内会の回覧板」や「新聞」な

表5-2 社会活動の参加状況を従属変数とした重回帰分析の結果 (中年後期群)

中年後期群(55歳~64歳) N = 117		地域の行事・活動	健康・スポーツ活動	催し物	カルチャー教室	学習活動	資格・技能取得活動
従属変数		β	β	β	β	β	β
統制変数・独立変数							
基本属性	性別	0.041	0.171	0.153	0.187	0.109	0.166
	年齢	0.139	0.130	-0.022	-0.023	-0.141	-0.014
	最終学歴	-0.068	0.106	0.135	0.046	0.069	0.014
	世帯年収	0.067	-0.084	0.014	0.044	0.010	0.238 *
	暮し向き	0.063	0.088	0.056	0.193	-0.054	-0.146
	健康状態	-0.126	0.092	0.035	-0.017	-0.013	0.054
	配偶者の有無	0.120	-0.044	-0.060	-0.126	0.042	-0.130
	就労実態	0.024	-0.287 *	0.052	-0.051	0.089	0.070
情報源	家族の紹介	0.257 *	0.231	0.035	-0.032	-0.019	0.110
	友人・知人の紹介	0.104	-0.037	-0.019	0.005	0.145	-0.117
	職場の同僚の紹介	-0.199	0.194	0.010	-0.047	0.086	0.017
	新聞	-0.124	-0.380	-0.029	0.027	-0.352	-0.026
	テレビ	-0.320	-0.222	-0.188	-0.442 *	-0.144	-0.201
	雑誌・本	0.344	0.103	0.091	0.444 *	0.526 *	0.447 *
	フリーペーパー	0.084	-0.217	-0.045	-0.005	0.205	-0.059
	チラシ	-0.210	0.274	-0.167	-0.218	-0.376 *	-0.457 *
	自治会・町内会の回覧板	0.584 ***	-0.076	0.253	0.411 **	0.178	0.243
	行政の広報誌	-0.015	0.220	0.349 *	0.092	0.196	0.029
	行政のホームページ	0.037	0.206	0.105	0.317	0.112	0.026
	行政以外のホームページ	-0.036	-0.058	-0.102	-0.278	-0.180	0.041
	フェイスブック	0.008	0.296	0.174	0.097	-0.190	-0.187
	ツイッター	0.036	-0.155	-0.148	-0.076	0.415 **	0.359 *
	ライン	-0.065	-0.038	-0.014	0.022	-0.178	-0.242
	配信メールサービス	0.219	0.069	0.116	0.166	0.198	0.295 *
決定係数 R^2		0.502 ***	0.367 *	0.320	0.345 *	0.391 **	0.340 *

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

注: β は標準偏回帰係数

表5-3 社会活動の参加状況を従属変数とした重回帰分析の結果（高齢期群）

高齢期群(65歳以上) N = 431		地域の行事・活動	健康・スポーツ活動	催し物	カルチャー教室	学習活動	資格・技能取得活動	
従属変数		β	β	β	β	β	β	
統制変数・独立変数		β	β	β	β	β	β	
基本属性	性別	0.003	0.008	0.211 ***	0.163 **	0.121 *	-0.031	
	年齢	0.009	0.006	0.003	0.032	0.021	-0.053	
	最終学歴	-0.025	-0.002	-0.007	-0.021	0.093	-0.009	
	世帯年収	0.025	0.041	-0.033	0.000	-0.100	-0.007	
	暮し向き	-0.048	-0.029	0.093	0.027	0.042	0.016	
	健康状態	0.109 *	0.227 ***	0.197 ***	0.104	0.090	0.073	
	配偶者の有無	0.016	-0.051	0.017	0.031	0.104 *	-0.034	
	就労実態	0.073	-0.137 **	-0.031	-0.091	-0.033	0.042	
	情報源	家族の紹介	-0.008	0.026	-0.018	-0.136 *	-0.004	0.016
		友人・知人の紹介	0.263 ***	0.341 ***	0.185 **	0.353 ***	0.194 **	0.140 *
職場の同僚の紹介		0.075	0.159 **	0.075	0.121 *	0.067	0.185 **	
新聞		-0.076	-0.085	-0.060	-0.076	0.023	-0.003	
テレビ		-0.064	-0.121	-0.026	-0.119	-0.108	-0.068	
雑誌・本		0.039	0.056	0.083	0.066	0.179 *	0.084	
フリーペーパー		-0.091	-0.138 *	0.096	-0.027	-0.028	0.020	
チラシ		0.080	0.062	-0.157 *	0.075	-0.058	-0.027	
自治会・町内会の回覧板		0.374 ***	0.112	-0.043	-0.035	-0.017	-0.078	
行政の広報誌		0.098	0.079	0.351 ***	0.181 *	0.238 **	0.143	
行政のホームページ		-0.007	0.071	0.138	-0.004	0.001	-0.110	
行政以外のホームページ		-0.041	0.025	-0.062	0.050	0.094	0.132	
フェイスブック		-0.067	-0.090	-0.104	-0.003	0.082	-0.051	
ツイッター		0.222 *	0.173	0.128	0.200	0.048	0.183	
ライン		-0.052	-0.034	0.058	-0.093	-0.008	-0.094	
配信メールサービス		-0.082	-0.039	-0.074	-0.050	-0.007	0.017	
決定係数 R ²		0.370 ***	0.358 ***	0.353 ***	0.276 ***	0.293 ***	0.185 ***	

*p<.05, **p<.01, ***p<.001
注: β は標準偏回帰係数

ど、身近で手軽に入手できる情報をよく利用していた（表3）が、新聞も社会参加活動には結びついていないことが示された（表5-3）。

さらに、重回帰分析の結果（表5-1・表5-2・表5-3・表6）にみられるように、中年前期群では「友人・知人の紹介」は「地域の行事・活動」に限って関連がみられ、「職場の同僚の紹介」はいずれの社会活動とも関連がみられなかった。また、中年後期群では「友人・知人の紹介」、「職場の同僚の紹介」とも、いずれの社会活動でも関連がみられなかった（表5-1, 表5-2, 表6）。活動仲間の有無や多忙が活動参加の大きな阻害要因となっている中年前期群や中年後期群では、友人・知人や職場の同僚の紹介をとって社会活動へ参加する機会が少ないことが推察された。

一方、高齢期群では「友人・知人の紹介」や「職場の同僚の紹介」の活用は様々な活動参加と関連していたが、「家族の紹介」の活用はいずれの活動参加とも関連はみられなかった（表5-3, 表6）。このような結果は、高齢者の社会参加活動のきっかけは「友人・仲間のすすめ」が最も多く「家族のすすめ」は少ないとした内閣府の調査⁽¹⁴⁾結果と一致していた。高齢者の社会活動では、友人による手段的支持はプラス効果を増加させマイナス効果を減少させるが、家族による手段的支持はマイナ

ス効果を増加させプラス効果を損なうといわれている⁽²⁹⁾。本研究により、情報のサポートにおいても、家族よりも友人や知人による支援の方が効果的であり⁽³⁰⁾、実践的な情報源であることが示された。

また、中年前期群では「雑誌・本」の活用はいずれの社会活動とも関連は見られなかった（表5-1, 表6）が、中年後期群では「雑誌・本」の活用が「カルチャー教室」、「学習活動」、「資格・技能取得活動」への参加と関連していた。中年後期群では、退職後を意識した生活の取り組みとして老後に備えた行動をとるようになり、公的地域情報誌による情報活用が社会活動への参加と関連することが指摘されている⁽²⁰⁾。しかし、本研究の結果、公的地域情報誌のほかに、「雑誌・本」や「ツイッター」、「配信メールサービス」など自ら意識的に入手した情報からも様々な社会活動への参加を検討していることが示された（表5-2, 表6）。また、高齢期群では「雑誌・本」の活用が「学習活動」への参加と関連していた（表5-3, 表6）。

さらに、「行政の広報誌」は全ての年代で最も利用されているにもかかわらず、中年前期群と中年後期群では、「行政の広報誌」の活用は社会参加活動へは結びついていないことが示された。「行政の広報誌」の活用は、高齢期群でのみ「催し物」、「カルチャー教室」、「学習活動」への参加と関連がみられ

表6 社会活動の参加状況を従属変数とした重回帰分析の結果 (総括)

従属変数	地域の記事・活動	健康・スポーツ活動	催し物	カルチャー教室	学習活動	資格・技能取得活動
	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群
統制変数・独立変数	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群
基本属性	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群
性別						
年齢						
最終学歴						
世帯年収						
暮らし向き						
健康状態						
配偶者の有無						
就労実態						
情報源	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群	中年 前期群
家族の紹介						
友人・知人の紹介						
職場の同僚の紹介						
新聞						
テレビ						
雑誌・本						
フリーペーパー						
チラシ						
自治会・町内会の回覧板						
行政の広報誌						
行政のホームページ						
行政以外のホームページ						
フェイスブック						
ツイッター						
ライン						
配信メールサービス						
決定係数 R ²						

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

た(表5-3, 表6)。鈴木⁽³¹⁾は、自由時間ができた退職後は市町村の広報誌やお知らせ等を詳細にチェックすることで、行政の情報の重要性に気付くと論じている。中年期からの「行政の広報誌」の継続的な閲覧行動が地域への関心を高め、高齢期における社会参加活動につながるものと考えられる。

また、行政のホームページや行政以外のホームページの活用については、いずれも社会活動への参加との関連はみられなかった。WEB上の情報サイトは、誰でも利用できる一般的な情報源であるが、“貴重”な“生の”情報は得にくい⁽³²⁾。自治体がWEB上で公開している広報紙の大半がPDF化するに留まっており、インターネットの検索サイトで用語検索をすることが難しくなっている⁽³³⁾。これらの影響を受けて、WEB上の多量な情報から社会活動に必要な情報を探し出すために苦勞し、WEBを敬遠する傾向が強くなっていることなどが報告されている⁽³⁴⁾。インターネットの検索サイトは、いずれの年代においても情報収集手段として最も多く利用されてはいるが⁽³⁵⁾、WEBは社会参加活動の情報源として活用することは難しくなっていることが推察された。

そして、SNSの各情報源の活用は年代によって関連する活動内容が異なっていた(表6)。「フェイスブック」の活用は中年前期群の「学習活動」と関連がみられた。「ツイッター」の活用は中年後期群の「学習活動」や「資格・技能取得活動」、および高齢期群の「地域の行事・活動」との関連がみられた。「配信メールサービス」の活用は中年前期群の「催し物」への参加、および中年後期群の「資格・技能取得活動」との関連がみられ、既存研究⁽²⁰⁾と異なる結果が得られた。本研究では、個々の情報源の活用の直接的効果を社会活動毎に検討したことが結果の違いとなったと考えられた。

高齢期群と比べ、活動仲間の有無や多忙が活動参加の大きな阻害要因となっている中年前期群や中年後期群では、時間や場所を選ばないバーチャルな世界でのコミュニケーションが、友人・知人との顔の見えるリアルな交流の代替機能を果たす可能性が示された。

SNSは時間や場所を選ばずに新着情報が自動配信され、それをトリガーとして情報を受動的に入手することが出来る。このような簡便さが今後も情報

活用へと継続していくと思われる。しかし、社会活動における情報通信技術(ICT)の利活用は近年始まったばかりである。本調査で得られたSNSの活用と社会活動への参加との関連については、今後もさらに検討していくことが求められている。

さらに、表6にみられるように、年齢が上がるにつれて、社会参加活動についての情報源の数も、関連する社会活動の種類も増えていることが示された。

高齢期群では、様々な情報源を活用して社会活動に参加していることが推察された。高齢期は身体的衰えとともに行動範囲が狭くなり、中年期に比べ周囲に同調し依存する志向が強くなるといわれている。社会活動への参加意向のある高齢者を活動参加につなげるためには、「情報提供」という社会的支援がより必要とされることが示唆された。

4.2 活動内容による特徴

1) 「地域の行事・活動」に関連する情報源について

中年前期群では「友人・知人の紹介」の活用が「地域の行事・活動」への参加と関連していた。また、中年後期群では「家族の紹介」の活用が「地域の行事・活動」への参加と関連していた(表6)。高齢期群に比べ参加意欲の低い「地域の行事・活動」(表4)では、知人・友人や家族による声掛けが中年前期群や中年後期群の参加を促す有効な手段として用いられていることが示唆された。

また、高齢期群では「友人・知人の紹介」の他に、「ツイッター」が地域SNSとして、地域のコミュニティ活動の告知・報告や諸連絡など、活動継続のための情報共有手段として用いられていることが推察された。地域のコミュニティ活動に特化した地域SNSは若年層よりも高齢層の利用率が高く⁽³⁶⁾、さらに、地域SNSの利用により実社会で活動を通じたネットワークが構築される⁽³⁷⁾ことが指摘されている。本調査でも、このような高齢期群の地域SNS利用の傾向が示された。

さらに、「自治会・町内会の回覧板」の活用は、いずれの年代においても「地域の行事・活動」への参加との強い関連がみられた(表6)。地域の住民は自治会や町内会の回覧板により、地域社会の情報や生活に最も密着した情報を得ることが可能となっている。そして、これらの情報を通じて自治会や町内会の人々と知り合う機会も増え、相互の信頼度が

高まる。また、配布されている情報も定期的に入手することが出来る。このような信頼性と利便性により、「地域の行事・活動」への情報活用につながっていくと思われる。これらは、「地域の行事・活動」への参加のための「自治会・町内会の回覧板」の有用性を示すものである。本調査を行った埼玉県所沢市は、住民の居住地に対する愛着も強く、自治会・町内会の加入率も高い⁽²¹⁾。しかし、マンション群が建ち並び、地域住民のつながりが希薄な大都市においても同様の結果が得られるのかどうかは、今後の課題である。

2) 「健康・スポーツ活動」に関連する情報源について

高齢期群で、「友人・知人の紹介」や「職場の同僚の紹介」が「健康・スポーツ活動」への参加と関連していた。親しい知人からの誘いであれば、未知の世界に対する漠然とした不安感を和らげ気軽に参加することが出来る⁽³⁸⁾。友人など顔の見える身近な人の評価を通じた情報であるからこそ、興味が生まれ信頼が持てる⁽³⁰⁾。「紹介」は高齢者の「健康・スポーツ活動」への参加の大きな後押しとなっていることが示唆された。

3) 「催し物」に関連する情報源について

中年前期群では、「自治会・町内会の回覧板」と「配信メールサービス」の活用が「催し物」への参加と関連していた。中年前期の社会活動は、子供をとおしての活動や親しい仲間のグループなど、地域の繋がりの中で行われている⁽¹¹⁾。また近年、学校からの諸連絡に配信メールサービスが活用されるようになってきた。それらの一連の行動が、本調査においても示された。高齢期群では「友人・知人の紹介」と「行政の広報誌」が「催し物」への参加と関連していた。

4) 「カルチャー教室」に関連する情報源について

中年後期群では、「雑誌・本」と「自治会・町内会の回覧板」の活用が「カルチャー教室」への参加と関連していた。高齢期群では「友人・知人の紹介」、「職場の同僚の紹介」、「行政の広報誌」が「カルチャー教室」への参加と関連していた。

5) 「学習活動」に関連する情報源について

中年前期群では、「新聞」や「チラシ」、「フェイスブック」の活用と「学習活動」への参加との関連がみられた。子育てや就労などで多忙な現役世代で

は、時間的にも精神的にもゆとりがなく、新聞やチラシ、フェイスブックを見るという日常生活の習慣を通じた手軽に入手できる情報の活用により、学習活動への機会を得ていることが推察された。中年後期群では、「雑誌・本」や「ツイッター」の活用と「学習活動」への参加との関連がみられた。高齢期群では、「雑誌・本」や「行政の広報誌」の活用と「学習活動」への参加との関連がみられた。「学習活動」は人によって興味関心が異なり、内容が多様である。中年後期群や高齢期群では、「行政の広報誌」などの地域に限った情報のほかに、多種多様な情報が得られる「雑誌・本」から自分に適した活動を検討していることが示唆された。

6) 「資格・技能取得活動」に関連する情報源について

中年後期群では「資格・技能取得活動」においても「雑誌・本」の活用との関連がみられ、「カルチャー教室」や「学習活動」と同様な傾向となっていた。また、「ツイッター」や「配信メールサービス」などが活用されていた。高齢期群では「友人・知人の紹介」や「職場の同僚の紹介」の活用が関連しており、「健康・スポーツ活動」と同様に実践的な情報源となっていた。

4.3 まとめと課題

本研究では、社会活動への参加と情報活用の実態について、年代と活動内容により比較検討をした。その結果、中高年者の社会参加活動には、年代や活動内容によって、異なった情報源が用いられていることが実証された。今後、望まれる活動情報を効果的に伝達するには、年代や活動内容に応じた情報提供手段の選定が必要とされることが示唆された。

本研究は横断的デザインに基づいており、各年代における情報活用と社会参加活動との関連については、十分に検討するまでには至っていない。また、中年期における社会参加活動の重要性が指摘されてはいるが、中年期の社会参加活動に関連する要因についての実証研究については、今後の課題となっている。そこで、年代の差異についての因果関係を検証するためには、縦断的研究を継続していくことが求められている。

引用文献

- (1) 厚生労働省 (2003). 平成15年度版厚生労働白書 (<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/03/dl/1-3a.pdf>, 20190408).
- (2) 内閣府 (2015). 生涯活躍のまち (日本版CCRC) 構想最終報告 (<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/ccrc/saisyu-houkoku.html>, 20190408).
- (3) 小田勝利 (1998). 退職に関する新たな視点とサード・エイジの生活課題：高齢期のライフスキルとサクセスフル・エイジングに関する実証研究へ向けて 神戸大学発達科学部研究紀要, 5 (2), 117-133.
- (4) 小田勝利 (2003). いまの高齢者は老後の準備を何歳頃に始めたか 神戸大学発達科学部研究紀要, 11 (1), 161-172.
- (5) 杉澤秀博・秋山弘子 (2001). 職域・地域における高齢者の社会参加の日米比較 (特集21世紀の高齢社会と雇用) 日本労働研究雑誌, 43 (1), 20-30.
- (6) 岡本秀明 (2006). 高齢者のボランティア活動に関連する要因 厚生指標, 53 (15), 8-13.
- (7) 片桐恵子 (2012). 退職シニアと社会参加 東京大学出版会, 20:219-210.
- (8) 富樫ひとみ (2013). 第2章 高齢者のボランティア活動の促進に向けて, サラリーマンの生活と生きがいに関する研究; 過去20年の変化を追って (公財) 年金シニアプラン総合研究機構, 29-49.
- (9) 菅谷和宏 (2013). 第5章 団塊の世代における生きがいの推移と今後の高齢化社会に向けて, サラリーマンの生活と生きがいに関する研究; 過去20年の変化を追って (公財) 年金シニアプラン総合研究機構, 85-120.
- (10) 東京大学高齢社会総合研究機構 (2014). 高齢者の社会参加の実態とニーズを踏まえた社会参加促進策の開発と社会参加効果の実証に関する調査研究事業報告書 (<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2014/05/556984f2bbf71217e5c092b690579fb8.pdf>, 20190408).
- (11) 片桐恵子 (2013). 過去の社会参加経験が現在の社会参加に及ぼす影響：東京都練馬区と岡山県岡山市の調査結果 老年社会科学, 35 (3), 342-353.
- (12) 内閣府 (2006). 平成16年版高齢社会白書 (http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2004/zenbun/pdf/h16_lchap1_2_4.pdf, 20190408).
- (13) 内閣府 (2014). 平成26年版高齢社会白書 (http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2014/zenbun/pdf/1s2s_5.pdf, 20190408).
- (14) 内閣府 (2013). 平成25年版高齢者の地域社会への参加に関する意識調査 (<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/zentai/index.html>, 20190408).
- (15) 高橋昌子 (2000). 高齢者による社会活動の現状と将来的展望：千葉市とガルベストーン市での活動を通して 日本の地域福祉, 14, 90-100.
- (16) 岡本秀明 (2004). 在宅高齢女性の高齢期の活動における活動意向の充足状況に関連する要因：大阪市N区における生きがいづくり委員会の調査から 社会福祉学, 45 (2), 91-99.
- (17) 岡本秀明, 岡田進一, 白澤政和 (2006a). 大都市居住高齢者の社会活動に関連する要因：身体, 心理, 社会・環境的要因から 日本公衆衛生雑誌, 53 (7), 504-515.
- (18) 岡本秀明, 岡田進一, 白澤政和 (2006b). 高齢者の社会活動における非活動要因の分析：社会活動に対する参加意向に着目して 社会福祉学, 46 (3), 48-62.
- (19) 岡本秀明 (2012). 都市部在住高齢者の社会活動に関連する要因の検討：地域におけるつながりづくりと社会的孤立の予防に向けて 社会福祉学, 53 (3), 3-17.
- (20) 茨木裕子・李泰俊・加瀬裕子 (2017). 中高年の老後観, 老後の準備行動および情報活用と社会活動への参加との関連：中年前期群と中年後期群および高齢期群との比較検討 老年社会科学, 39 (3), 316-329.
- (21) 所沢市 (2017). 平成29年度版所沢市市民意識調査報告書 (<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/shiseijoho/keikaku/shiminishiki/siminisiki29.files/H29isikityousa.pdf>, 20190408).
- (22) 松岡英子 (1992). 高齢者の社会参加とその関連要因 老年社会科学, 14, 15・23.
- (23) 井戸正代・川上憲人・清水弘之ほか (1997). 地域

- 高齢者の活動志向性に影響を及ぼす要因および実際の社会活動との関連 日本公衆衛生雑誌, 44 (12), 894-900.
- (24) 金貞任・新開省二・熊谷修ほか (2004). 地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因: 埼玉県鳩山町の調査から 日本公衆衛生雑誌, 51 (5), 322-334.
- (25) 宇良千秋 (2003). 高齢者の社会参加の促進・阻害要因 (特集 高齢者の社会参加) 老年精神医学雑誌, 14 (7), 884-888.
- (26) 千保喜久夫 (2009). 第5章 社会参加機会との出会い, シニアの社会参加と生きがいに関する事業 (公財) 年金シニアプラン総合研究機構, 109.
- (27) 橋本修二・青木利恵・玉腰暁子ほか (1997). 高齢者における社会活動状況の指標の開発 日本公衆衛生雑誌, 44 (10), 760-768.
- (28) 石田祐 (2012). 第5章 高齢者の就業と社会貢献活動: 移行パターンに見る代替・補完関係, 高齢者の社会貢献活動に関する研究: 定量的分析と定性的分析から. 労働政策研究報告書142 労働政策研究・研修機構, 103-124.
- (29) Huxhold O, Miche M, Sch. z B (2014). Benefits of Having Friends in Older Ages: Differential Effects of Informal Social Activities on Well-Being in Middle-Aged and Older Adults. *Journal of Gerontology Series B Psychological Sciences and Social Sciences*, 69 (3), 366-375.
- (30) 富樫ひとみ (2009). 第4章 社会活動団体の形態・機能と参加のきっかけ, シニアの社会参加と生きがいに関する事業 (財) 年金シニアプラン総合研究機構, 26.
- (31) 鈴木征男 (2007). サラリーマンの退職後の社会的活動: リタイア直後の社会的準備行動の有効性 ライフデザインレポート, 181, 4-15.
- (32) 下村英雄・堀洋元 (2004). 大学生の就職活動における情報探索行動: 情報源の影響に関する検討 社会心理学研究, 20 (2), 93-105.
- (33) 本田正美 (2012). 自治体広報紙のアーカイブ化の現状と課題 情報知識学会誌, 22 (2), 83-90.
- (34) 北尾嘉宏・永井智子・林晋也ほか (2004). 自治体によるイベント情報の効果的な循環 同志社政策科学研究, 6 (1), 33-52.
- (35) 総務省 (2015). 平成27年度情報通信白書 (<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/n2200000.pdf>, 20190408).
- (36) 総務省 (2011). 平成23年度情報通信白書 (<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h23/pdf/n3020000.pdf>, 20190408).
- (37) 田中秀幸 (2012). 国・自治体による地域SNS; 施策とその効果の検証: 情報化時代のローカルコミュニティ—ICTを活用した地域ネットワークの構築— 国立民族学博物館調査報告, 106, 83-103.
- (38) 千保喜久夫 (2013). 第6章 定年退職期以降の生活と生きがい, サラリーマンの生活と生きがいに関する研究 (公財) 年金シニアプラン総合研究機構, 134.